

オンライン GCM17 に参加して

東海大学 情報理工学部 高雄元晴

我が国において 2020 年の冬に初めての新型コロナウイルス感染者が確認されてからまたたく間に多くの人々が感染し、貴重な命が失われるとともに回復後も重い後遺症を残している。このような状況において他の学協会同様、GCM も 12 月の定例会(GCM17)をオンラインで行わざるを得なくなった。筆者はこの大会にシンポジウムの座長として参加したが、本稿においてオンライン GCM17 に関する感想と今後の展望を述べたい。

ところで、オンライン大会は参加者同士の交流が十分にはかれない。自宅や職場からアクセスする関係で会議に集中できない。発表に対して議論を深めにくいなど、概して不評である。当初、GCM17 においてもこのような問題が座長として懸念されたものの、いざ始めてみるとこれまでのオンサイトの大会より多くの方々に参加いただくと共に、通常と変わらず深い議論ができたと感じた。これは長年にわたって GCM 大会においてフレンドリーな環境で参加者の方々が普段から深い議論を行ってきたため、会議の場がオンサイトからオンラインに移っても変わらず GCM らしさを維持できたものと感じた。いわば GCM はオンライン大会の利点を十二分に活かせる組織であると感じた。

我が国においても新型コロナウイルスワクチンの接種がようやく始まり、早くも今年度中にはほとんどの国民は免疫を得られると予測される。そのため遅くとも数年以内には GCM も再びオンサイトで大会を再開できるものと期待される。その場合でもたとえばオンサイトとオンラインを交互に行うことにより、オンサイト大会で参加者同士が交流を深めかつ会場に来ることができない参加者もオンライン大会でフォローが可能となろう。

GCM 大会の発表内容の特徴は、学術のみならず医療福祉機関や企業における取り組み・工夫などの紹介が数多くなされていることが挙げられる。特に後者の発表は、いずれも GCM の活動を知らない企業技術者、営業担当者、ケアワーカーの方々、家族の介護に携わるの方々などから強い関心をいただけるもので、オンラインで彼らに気軽に参加いただければ GCM の NPO としての価値は今まで以上に高まると思われる。

これは筆者の提案ではなるが、発表者の了解が得られればオンライン大会の様子を録画して、Youtube などにアップロードしアーカイブ化するのはいかがであろうか？誰もが簡単に動画としてアクセスすることができれば、GCM の知名度を向上させるとともに、新たな参加者を得ることにつながる。また医療福祉に関心を寄せる多くの一般の人々にとって非常に有益な情報源にもなる。

新型コロナウイルス禍がもたらした被害や社会への悪影響は計り知れない。また学術においても旧来の大会や研究会の運営方法の変更を余儀なくされた。GCM においても昨年

報告

はオンライン大会に変更することになったが、期せずして GCM ならではの利点も確認することができた。新型コロナウイルス禍が終焉したあとでも、オンライン大会を有効に利用し、学術面での充実や参加者の利便性の向上を図ると共に GCM のプレゼンスを高めるよう議論できればと筆者は考える。